

令和4年10月3日

古市小学校 保護者 様

丹波篠山市立古市小学校
校長 酒井 宏

学力向上から資質・能力向上へ

今年度、4月19日に実施した6年生対象の「全国学力・学習状況調査」、および5年生対象の「丹波篠山市学力状況調査」、3、4、5、6年の「丹波篠山市生活習慣状況調査」についての結果がまとまりましたのでお知らせします。この調査の目的は、「児童の学習状況や生活状況を把握・分析し、授業改善や指導に生かす」というものです。

この調査結果は児童の学力のすべてを表したものとはいえませんが、学校全体で取り組んできたこれまでの学習の成果と課題を見ることができると考えています。保護者の皆様にお知らせし、一緒になって取り組んでいきたいと考えていますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

1 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査

(丹波篠山市学力調査 5年生)

※目標値：学習指導要領に示された内容について、項目ごとに正答できることを期待した児童の割合を示します。この目標値を基に学力の定着度を見ています。

【国語】

領域別正答率	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の取り扱いに関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
目標値						
古市小5年生						

※「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」の項目に課題があります。複数の情報を組み合わせて論理的に説明文を書く力を伸ばすことが必要です。

【算数】

領域別正答率	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
目標値				
古市小5年生				

※「数と計算」と「図形」の項目に課題があります。大きな数や分数の大小についての理解力、面積や体積の量感と単位の関係および作図力、解への過程を順序良く論理的に説明する力を伸ばすことが必要です。

(全国学力調査 6年生)

【国語】

領域別正答率	言葉の特徴や使い 方に関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと
全国平均					
古市小6年生					

※「話すこと・聞くこと」の項目に課題があります。相手が伝えたい内容（主旨）をつかむ力や自分の考えに必要な言葉を使って論理的に説明する力を伸ばすことが必要です。

【算数】

領域別正答率	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
全国平均				
古市小6年生				

※「図形」「変化と関係」の項目に課題があります。割合に使われる百分率や分数の関係を理解し活用する力、図形の作図の手順（プログラミング的思考）を説明する力を伸ばすことが必要です。

【理科】

領域別正答率	エネルギー	粒子	生命	地球
全国平均				
古市小6年生				

※「エネルギー」「粒子」の項目に課題があります。基礎的な知識を踏まえて、課題解決への実験の見通しを持つ力、実験の結果から予想・考察する力を伸ばす必要があります。

(2) 学習や生活習慣に関する調査 生活習慣状況調査(3, 4, 5, 6年生)、学習状況調査(6年生)

○学習習慣

宿題を毎日する児童の割合は高いですが、休みの日など、自分で計画を立て、予習・復習をしている児童の割合が、全国平均に比べて低い傾向にあります。また、問題理解・長文読解に必要な読書や新聞記事を読む割合も低い傾向にあります。「学校の授業で学んだことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と答えた児童が9割を超えることから、「自ら学ぼうとする姿勢」や「学習習慣づくり」を家庭と連携しながら進めていきます。

○基本的な生活習慣

朝食を毎日食べている児童の割合は大変高いですが、決まった時刻に寝ている児童の割合は、学年により差があり、遅くまで起きている子もいるようです。また、次の日の学習の準備や予定を前日に確認する割合が全国よりも低い傾向にあります。「早寝・早起き・朝ご飯」の取り組みを継続するとともに、見通しを持って生活をする習慣作りも進めていきます。

○規範意識

「学校のきまりや、クラスみんなで決めたルールを守る」「困った人がいると助ける」「いじめはいけない」の回答は、どの学年も全国より上回っていて、規範意識は身につけているといえます。

○学級風土

「今の学級が好き」「みんなといると楽しい」という割合が大変高く、「好きな教科がある」という割合も高い。学校においてみんなで学ぶことや活動することに喜びを感じているととらえ、今後も子どもたちにとっての学びの場である学校・学級づくりに努めていきます。

○地域や社会の出来事・問題への関心

「地域の行事やボランティア活動に参加する」「高学年ほど社会の出来事や問題に関心を持っている割合が高く、新聞やネットニュースを読んでいる子が多いです。

○インターネットやテレビ、ゲームの時間

インターネットやテレビ、ゲームの時間が、2時間以上3時間以内の子が多いです。特に高学年に長時間の傾向がみられます。中には4時間以上と答えた子もいます。長時間の使用や依存傾向にならないように、家庭と連携しながら指導していきます。

○自尊感情・自己肯定感

「自分は大切な存在」「自分は家族や友だちから愛されている」「頑張ったときほめてくれる」「自分には良いところがある」「夢がある」などと回答した割合は全国平均より高い結果がでています。今後も様々な場を通じて、一人一人の良さを認め合い、自尊感情や自己肯定感を育む教育活動を進めていきます。ご家庭でのご支援もよろしくお願いいたします。

2 学力向上、課題解決のための取組

今回の学力調査の趣旨は、これからの社会を生きていく子どもたちに必要な学力は、基礎的な知識・技能の定着を見るだけではなく、複数の情報を比較・分類・類推・関連付け等しながら思考したり、表現したりして、自己の課題解決力につながっているかを見ています。つまり学んだことは、知識・技能だけでなく、それらの生きる力として活用できる能力を求められています。全体として、概ね基礎学力の定着は見られますので、学校における集団での学習機会を生かして、より学びあう活動を取り入れ、基礎学力を活用していくように取り組みます。学力をさらに向上させるために、引き続き、以下のような取組を推進していきます

(1) 学習規律の定着を図ります。

- ・「時間を守る」「自分の持ち物を整頓する」「忘れ物をしない」などの定着を進めます。

(2) 指導方法の改善をめざします。

- ・自分の「学ぶめあて」を意識させ、児童が意欲関心を持って主体的に学ぶ授業づくりを進めます。

- ・適切な教材・教具やICTを活用してわかる授業づくりを進めます。
- ・思考の機会を設定し、話し合い活動や表現活動とその方法について指導します。
- ・実験や観察など、体験活動を多く取り入れ、学びが生活につながることを意識させます。
- ・一人一人のつまずきを把握し、個に応じた指導を進めます。

(3) より良い生活習慣づくりを推進します。

- ・早寝、早起き、朝ご飯を推進します。
- ・インターネットやテレビ、ゲーム等について家庭でのルールづくりを推進します。

子どもたちの学ぶ意欲を高めながら、「学んで楽しい」「わかっておもしろい」「できるって自信になる」という実感が持てるように、資質・能力の育成に取り組んでいきます。保護者の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。